

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 6	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and metabolic syndrome among Shanghai adults: a randomized multistage stratified cluster sampling investigation. 上海成人における飲酒とメタボリックシンドローム：無作為多段階層化抽出集団での検討	
執筆者	
Fan JG, Cai XB, Li L, Li XJ, Dai F, Zhu J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
World J Gastroenterol. 2008 Apr 21;14(15):2418-24.	
キーワード	
飲酒量・飲酒頻度・メタボリックシンドローム・上海	
要 旨	
<p>目的： 上海の成人集団で、アルコール摂取とメタボリックシンドロームの有病率との関連を調べること。</p> <p>方法： 上海の成人から無作為に多段階層化抽出を行い、飲酒量および米国 NCEP 基準によるメタボリックシンドロームの各要素について調べた。飲酒者の定義は月 1 回以上飲酒するものとした。</p> <p>結果： 対象は 3953 名（そのうち男性は 1524 名）、平均年齢は 54.3 歳であった。448 名（11.3%）は飲酒者であり、そのうち男性は 405 名、女性は 43 名であった。年齢と性を調整すると、飲酒率とメタボリックシンドローム有病率は 13.0%、15.3%であった。非飲酒者と比較すると、月 2 回以上飲酒する群で中性脂肪高値と血圧高値の頻度は高く、腹部肥満、HDL コレステロール低値、血糖高値の頻度は低く、メタボリックシンドロームの有病率も低くなっていた。飲酒者の中では、収縮期血圧、HDL コレステロール、空腹時血糖値、高中性脂肪有病率がアルコール消費量に伴って上昇する傾向にあった。しかし、LDL コレステロール、腹部肥満有病率、HDL コレステロール低値、メタボリックシンドローム有病率は減少する傾向にあった。これらの統計学的な有意性は性・年齢と関係していなかった。</p> <p>結論： 飲酒はアルコール摂取量に関わらずメタボリックシンドローム有病率が低くなり、HDL コレステロール、腹囲、糖尿病有病率に良い影響を与える。しかし、飲酒により高血圧、中性脂肪高値、高血糖の頻度は増える。これらの結果の臨床的意義については更なる検討が必要である。</p>	